

2022 年 9 月 29 日

博報堂教育財団 第 15 回、16 回「日本研究フェロシップ」

成果報告書

I. 研究成果概要

氏名（フリガナ） 在住国名	大原 由美子（オオハラ ユミコ） アメリカ
所属・役職	准教授
招聘回：招聘研究予定期間 （招聘研究期間）	第 16 回：2022 年 3 月 1 日～2022 年 8 月 31 日 (2022 年 3 月 3 日～2022 年 8 月 16 日)
受入機関	国立国語研究所
招聘研究テーマ	消滅危機言語・方言におけるアイデンティティと言語イデオロギーの考察-日本とハワイの比較
研究目的	本研究では日本の消滅危機に瀕する言語の中で特にアイヌ語と、沖縄のことばに焦点を当て言語の活性化のために現地で行われている教室や文化行事などの調査、また教育者や学習者及び地域の人々への言語意識に関するインタビューやアンケートなどの調査を実施し、今まで行ってきたハワイ語を話す人々の言語意識とアイデンティティについての認識についての研究結果との比較研究。
研究成果概要	
1. どのように研究を進めたか（具体的に） a. 国立国語研究所と国会図書館、書店などで資料集める b. アイヌ語としまくとぅばの普及、復興に関わっている方々に会いに行くためのスケジュール調整 c. 実際に札幌と那覇に赴き、研究者、活動を行っているグループと交流、活動に参加、見学 d. 今後どのようなことができるか、各グループや、研究者と、相談	
2. 研究によりどのような知見が得られたか（具体的に） a. 消滅危機言語の復興や普及に関わる要因として年齢や各自の育った環境より、個人の興味と意思が重要であるようだ。	

- b. 消滅危機言語の復興や普及に関わることは、個人のアイデンティティに強く影響を及ぼしているようだ。
- c. 消滅危機言語の復興や普及と言っても政治的、社会的、また文化的に差異が大きいですが、同時に似通った課題も十分に存在する。

3. 研究成果（予定を含む）

○論文（題目，掲載誌，発行者，掲載月，内容の概略（200字以内））

・イタリアのベネツチア大学の研究者と、しまくとうばの若い話者に関する論文に着手していますが、まだ掲載誌などは決まっておりません。

・

○口頭発表（題目，イベントの名称，日・場所，内容の概略（200字以内））

・

・

○その他の活動

- ・沖縄及び札幌の復興、普及に関わっているグループ間の交流を、沖縄研修という形で、9月に行います。
- ・札幌のグループへの講義のスケジュールを現在調整中です。

4. 今後の活動予定

これからも、研究者、センター、活動グループとの交流を通して、消滅危機言語の復興、普及に努力し、ハワイとマオリとの交流にも広げていく予定です。